



往還通信

第116号

ホームページ <https://miekenjukai.com>

R4.8.11発刊

E-mail oukan@ccnetmie.ne.jp



社会福祉法人 三重健寿会

〒510-8103 三重県三重郡朝日町大字柿字熊之田564番地

特別養護老人ホーム 往還

Tel (059)377-6011 Fax (059)377-6001



七夕レクリエーション

レク係

稲垣 美保



これからの希望やお願い事を短冊に書いていただき、笹に結びました。各ユニットで作った笹飾りは往還ホールに集めて、まわりには星を飾りつけました。利用者様が外で星を眺めている雰囲気になってくださるといいなあと思います。



たくさんの短冊の中から自分のはどこだろうと探す方もいらっしゃいました。



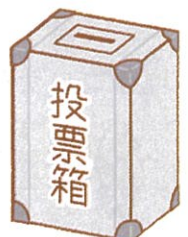
涼し気な七夕御膳はボリュームもあり利用者様にも好評でした♪



不在者投票



7/6 (水) に東棟ホールにて参議院選挙の不在者投票を行いました。投票される利用者様たちは投票寸前まで候補者の名前を忘れないようにと何度も確認されていました。





いざ鎌倉マークII

理事長 柿澤 善樹

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」は頼朝が死去し、本題に入った。このドラマにて、奇抜だが横暴な義経としての描き方は今まで無かったものだ。勇敢で心優しいヒーローとして、ドラマ小説で登場することがほとんどであった。10年程前、京都へ自動車で何度か行く機会があった。京都市内に入り、山科、栗田口、を経て、蹴上（けあげ）という交差点、駅がある。琵琶湖疎水記念館、ウェストン都ホテル京都の近くである。京都は興味深い地名が多い。悪王子、天使突抜、百万遍、閻魔前、大將軍など。平安貴族の蹴鞠に関係しているのかと思い調べた。なんと、義経（牛若丸）が鞍馬寺を抜け出し、奥州藤原家へ向かう途中、この地で平家の武士とすれ違い、その時平家武士が乗っていた馬の足から泥が飛び、義経にかかった。それを怒った義経はその場の平家数人を切り殺したという。そこから来た地名が蹴上というのである。一方、大泉洋演じる頼朝は夜間襲撃にあった時、工藤兄弟仇討時など二度愛人宅を訪れていて助かったと描かれている。これは脚本家三谷幸喜の作り話である。これにより大泉洋のファンが離れたとか。

一般的に思われていることと実態が異なることがある。ウクライナ戦争。ロシア国外に住んでいる方がロシアに住んでいる親など知人に「ロシアの悪行」を伝えたと、全く逆の意見が返ってくるという。プーチン大統領の支持率は80%という。ロシアの元首は中国と異なり、一応選挙で選ばれている。ではロシア人は悪人好きなのか。否、多くは正義の戦いと思っているようだ。ロシア国内マスコミのプロパガンダは恐ろしい。逆に日米欧の視点が正しいかどうか何時も点検する必要がある。太平洋戦争における、空母が一隻もない真珠湾攻撃で日本人は大喜びした。そして、英国チャーチル、米国ルーズベルトも大喜びしたという。

1日100人以上戦死しているウクライナ。日本で100人死亡する事故があれば新聞第一面を占める。これが毎日起こっている。欧米からの軍事支援がなければ直に降参しロシアの支配下に入るが、人々がこれ程死ぬことはなかつただろう。欧米は軍事支援するが誰一人自国民は死なない。ウクライナはこれ程戦死者が出るとしていなかったかも知れないが、戦うことを選んだ、あるいは選んでしまった。それでも、ウクライナでは志願兵が順番待ちである。

最近、「ボルシチ」がウクライナ料理としてユネスコ無形文化財と登録された。ロシア料理でないことが明確になった。「ピロシキ」はロシア、ウクライナ、ベラルーシ三者で残念ながら引き分けである。では「マトリョーシカ」はどうか。発祥起源は日本である。19世紀末、箱根にキリスト教ロシア正教の保養所があり、七福神を象った福禄寿の「入れ子人形」があった。ロシア正教の神品（聖職者）が持ち帰ったその人形がマトリョーシカの起源だといわれている。又、「コサックダンス」は軍事訓練としての踊りであり、ウクライナ発祥だ。

現在コロナ感染症第7波が来ている。感染力は極めて強いが重症化率は少ないといわれている。





管理栄養士 みどり通信



胡瓜作りを挑戦！

今年は異例中の異例で梅雨が始まったと思えばあっという間に梅雨明けになりました。そして酷暑の夏がまたやって来ました。

さて、胡瓜は夏野菜の一つです。夏野菜の特徴は体を冷やす作用があり熱くほてった身体を冷ますのに胡瓜が役立ちます。

胡瓜作りは実は3年前のコロナ禍になってから挑戦しています。1年目は1本だけ収穫し、2年目はほぼアリの被害で花は咲いても身が成長しない状況で散々な結果となっていました。あまりにも素人丸出しで笑わないでほしいと思いますが、現在はYouTubeの三和農園さんのご指導に添って改善しています。まず野菜作りは自己流ではダメだという事が一番に失敗だったのだと感じました。胡瓜は親蔓、子蔓、孫蔓の管理が大変重要だという事も初めて知った次第です。親蔓はしっかりとまっすぐ育てる。出てくる子蔓はきちんと剪定し、孫蔓に栄養をいきわたらせ孫蔓からしっかりと収穫をしていく。親蔓は背丈までのびたら潔く切り孫蔓の成長を促す。孫蔓からどんどん収穫できますとのお話にも驚いています。実際に孫蔓からどんどんと花が咲いています。なにせ素人なので真っすぐな胡瓜を育てるのが理想ですが曲がった胡瓜も愛らしく可愛いものです。またつつい収穫時期が大きく過ぎてしまいイタチの尻尾のような胡瓜が出来てビックリしました。そんなこんなでつつい人様の畑や庭の胡瓜が気になってしまいます。あの親蔓は随分と背が高くなったので切った方がいいのに...と余計なお世話なのと思う今日この頃です。





職員研修



コロナ感染対策の点から、ネット研修を活用した形で知識や技術の向上を図っています。

4月

『職員の健康管理』

『腰痛予防対策と腰を痛めない介助法』

『利用者の人権と尊厳について 権利擁護について』

研修の目的：日々利用者をケアする職員にとって、自身の健康管理や腰を痛めないケアのしかたを理解し実践していくことはとても大切。また、職員も利用者もお互いに尊重されるべき大切なひとりの人間。幸せを求める権利を理解し関わる。



5月

『非常災害時の対応』

『認知症ケアの専門性を理解する』

『認知症の特徴と多職種連携の必要性』

『認知症の3分類』

研修の目的：災害を身近に捉えて日頃から備えの意識向上を図る。高齢者6人のうち1人が認知症を呈しているといわれている。適切な声掛けや関わりをすることで、物事のわかりづらさで抱えているストレスを軽減し、できることを促していく。



6月

『新型コロナウイルス予防のために』

『新型コロナウイルス感染者が発生した際の留意点』

『食中毒の予防とまん延防止』

研修の目的：新型コロナウイルスの感染経路や感染期間、症状、予防、感染時の対応など「正しく知り、正しく恐れる」心構えを継続し実践していく。これから食中毒の時期になっていくので、注意していくことを再確認した。



7月

『事故発生後の対応』

『介護保険施設における安全対策強化研修』

『虐待防止に関する理解』

研修の目的：夜勤帯は20名に対して1名体制で勤務しているため、不安を感じながら働いている職員も多い。各利用者の行動の特性やリスクを把握するとともに防ぐことができる事故を防ぐ工夫をする。起きてしまった事故に関しては、しっかり受け止め、今後痛い思いをしていただかないようできる予防を実践する。虐待の制度を通して、自身の行動を振り返り、人としてより適切な振る舞いに繋げる。

